

しば子先生の

ミ

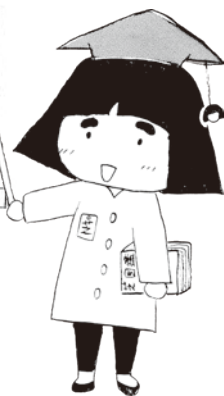
ニ

ミ

ニ

芝生教室

第 106 回 どれだけ



先生：今日は土壌分析結果を読み解くための基本である単位についてお話ししましょう・・・

生徒：単位がわからないとその数値の意味もわからなくなっちゃいますよね・・・

先生：その通りね・・・わかった気になるだけじゃダメよ・・・ちゃんと基本を理解しないとね・・・

生徒：やはり基本が重要ですね・・・

先生：土壌分析も国内の分析会社でやる場合もあるしアメリカのような海外でやる場合もあるわね・・・国内でやる場合は「計量法」という法律があつてきちんとした正確な結果を出す場合は**国家試験の「計量士」の資格**を持つ人がやらないといけないうね・・・そうでない場合は、「多い」とか「少ない」とかいった**漠然**とした表示しか許されないらしいわ・・・

生徒：そうなんですね・・・結構厳しいですね・・・

先生：アメリカにも同じような法律があるのでアメリカで分析してもきちんとしたところなら安心ね・・・アメリカは農業分野などでも作物の生産コストの無駄を省くために農家が頻繁に土

壌分析を委託するので大手の分析会社の年間分析件数は膨大な数になるわ・・・当然一件当たりの分析コストも競争力が高いわね・・・

生徒：なるほど・・・それはいいですね・・・

先生：ただ海外に「土」を送るのは病原菌や雑草の種などが入る可能性があるのが基本的に検疫の問題で許されないわ・・・ただ「**土壌分析のための特例**」という限定付きで特別な場合だけ輸入を許可されるのよ・・・だから誰でも簡単に土壌サンプルを海外に送れるわけではないわ・・・それに航空運賃も国内と違ってコストが高つくわね・・・

生徒：なるほど・・・それに時間がかかりそう・・・

先生：そうね・・・ただ今は分析結果は pdf ファイルでメールで送られてくるのでサンプルを送るのに約 1 週間、分析は数日・・・そのあとメールの添付で帰ってくるのでだいたい 1～2 週間ぐらいで帰ってくるので便利ね・・・アメ

リカの分析料金は安いから航空運賃を考えてもお得かもね・・・

生徒：それはいいですね・・・

先生：ただ問題が一つ・・・

日本の**度量衡**はヨーロッパやオーストラリアと同じ「**メトリック法**」なのに対してアメリカは「**ヤードポンド法**」を取っているの**重量表示**の分析結果はちょっと日本人にはつらいのよ・・・ただ前にも言った通り**比率表示**の場合は度量衡は関係ないので安心ね・・・

生徒：なるほど、問題は**重量**で表示されている場合ですね・・・

先生：そうね・・・それに加えて比率表示と重量表示の換算方法も知っておいた方がいいわ・・・違う分析会社の結果を見比べる必要があるときもあるし、比率表示を重量表示にして施肥量との関連を目安として計算するのにも役に立つし、感覚的に理解するためにもこの換算は重要ね・・・

【比率表示】

％（百分の一）

p p m（百万分の一）

【重量表示】

<メトリック>

g / m³（1 平米当たりグラム）

<ヤードポンド>

lbs / 1000sqft

（1000 平方フィート当たりポンド）

生徒：芝生の管理にも「算数」が必要なんですね・・・

先生：日本の重量表示は大体「**g / m³**」ね・・・これは**1 m³当たり何グラムのリン（P）とかカリ（K）**とかの元素が存在するかということになるけど、アメリカでは一般的に「**lbs/1000sqft**」で表示されるわ・・・lbs はポンド、**1 ポンドは約 450 g**、そして sqft の sq はスクエア、つまり平方の意味でそのあとの ft がフィートの略、つまり平方フィートね・・・**1000 平方フィートは約 93 m²**・・・私は暗算するときには**100 m²**と丸めるわ・・・**1 lbs/1000sqft は 450g÷93 m²で約 4.8 g / m²**となるのよ・・・

生徒：丸めて **5g / m²**ですね・・・

先生：アメリカのキーパーさんは肥料や農薬などの散布計画も基本的にこの **1000sqft 単位**で考えるわ・・・約 100 m²ね・・・日本人が 1 m²で考えるのに対してアメリカ人は約 100 m²単位・・・なんとなく文化の違いが出てくるわね・・・以前アメリカのキーパーさんにその話をしたら『じゃあ日本人は 1 m²単位で肥料を播けるのか！？』と言われたわ・・・確かにそうだね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・
shibako@hugh-enterprise.co.jp

